

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100731		
法人名	株式会社 トランスポート		
事業所名	洛和グループホーム 石山寺(1階)		
所在地	〒520-0862 滋賀県大津市平津1-13-33		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100731&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してから8年目を迎えます。利用者の方一人一人出来ることを見つけて日々のケアにあたっています。バリアフリーではないが、段差をリハビリととらえ、安全で安心して暮らしていただけるよう取り組んでいます。居心地のよい施設にしたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の保養所を改装されたの建物であり階段や多少の段差はありますが、長い廊下を歩いてもらったり、職員と一緒に階段の上り下り行うなど、ハード面を生活のリハビリと捉え支援しています。また、ホームの課題である地域に溶け込む取り組みとして、グループホームの理解を深めてもらうと共に、専門家としての地域貢献の一環として認知症サポーター講座を近々開催を予定しており、法人や行政と連携を図りながら取り組んでいます。職員は「利用者にも笑顔で過ごしてもらえるために何が出来るか」を常に考え、利用者家事や役割を担ってもらい、共に行うことで利用者にも職員にも「笑顔」が見られます。職員のスキルアップ研修等、法人のバックアップ体制も構築されており、職員同士のコミュニケーションも良好で働きやすい職場となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着」と銘うった理念ではない。あえて言うならばみんな仲良く助け合いの中に地域の方々も入っていると言える	法人の理念を基に、各ユニット毎の理念を職員間で話し合い作っている。入職時に理念を説明し、カンファレンスの中で何度も理念について繰り返し話し合い確認しながら、日常のケアの場面で実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しにはなるべく参加するようにしている。また、GHの消防訓練などにも参加をお願いしている	自治会に加入し、月1回ふれあいサロンで昔遊び、餅つき、お祭り、地域の防災訓練に参加し交流を図っている。またホーム主催の夏祭りを開催し、近隣住民を招待したり、ボランティアや中学生の体験学習の受け入れを行っている。地域の一員として琵琶湖一斉掃除に参加したり、近々認知症サポーター講座を予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアサポート研修を計画中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は真摯に受け止めGHが地域にどのように貢献できるか考えるきっかけとした	運営推進会議は家族、民生委員、市支所長、地域法活支援センター職員、管理者、職員をメンバーとして2ヶ月に1回、開催している。ホームからの行事や現状報告等を行い、参加者から地域の情報や意見、アドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状ではあまりかかわりが無いので、今後の課題として取り組みが必要	管理者は日頃から運営推進会議の議事録やホーム便りを持参し、市担当者とコンタクトを取るよう努めている。また認知症サポーター講座開催にあたっての課題等を相談し、アドバイスをもらうなど、気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放している。2回階段には転落防止の柵があるが日中は開放している	身体拘束について、法人で行う研修に参加し、更に職員間でも具体的に例を出し勉強会を行っている。玄関は施錠しておらず、2階からの転落防止に柵が取り付けられている。外出したい様子があれば職員と一緒に付き添い出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。その他の職員にも伝達している		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について特別に学ぶ機会を作っていない。 個人の裁量に任せている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を使って説明し理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている	家族の来訪時やカンファレンスの際に、直接利用者や家族に意見や要望を聞いている。日々の会話の中で些細なことにも耳を傾け、職員で話し合い、申し送り等で改善に反映させている。年2回、法人からのアンケートを行い、改善策を話し合い、結果を毎月の手紙で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで利用者のことは勿論 運営のことについても話し合いをしている	月1回のカンファレンスで個々の職員の気づきや意見、要望等をその都度話し合ったり、ユニットリーダーが直接職員の話聞き、運営に反映させている。また法人担当者や管理者と定期的に面談する機会を設け、意見や悩みを相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の力量評価を年3回行い状況を把握している。また、運営者は年1回の昇給で職員の努力に答えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間研修計画にそって、勤務調整 を行い参加している。また県が主催している研修は職員の力量に応じて受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHから移られた利用者のいる施設に定期的に面会には行っているが、相互訪問には至っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居担当の相談員がきめ細かな対応をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあう生活は、生活援助という側面や利用者同士の精神的な支え合いにも発展している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には細かく様子を報告して、職員では支えられないところをお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会人や時間は制限を設けないようにしている。外出も家族の了承があれば希望に沿っている	利用者の親戚や近所の人、大正琴の趣味仲間がホームに訪ねてきている。馴染みの美容室へ職員と一緒に出かけたり、以前のかかりつけ医の受診を支援している。家族と一緒に墓参りに出かけたり、親戚の集まりのために自宅に帰られるよう支援をしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニットを生かして、職員もどの利用者が遊びに来ても安心して過ごしてもらえるよう特長やADLの把握に努めている		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も要望があれば相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い把握に努めている	利用者と1対1でゆっくり話をしながら、好きなことややりたい事等、思いを聞いている。困難な場合には家族の協力で情報を把握したり、選択肢の中から選んでもらうなど把握に努めている。情報はセンター方式を活用しながら、心の奥の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いアセスメントしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は、本人や家族の要望を聞き意向に沿ったプランになるよう努めている	利用者、家族の希望を基に、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。欠席者の意見は事前に聞き、必要に応じて医師、看護師の意見も反映させた内容となっている。介護計画は3ヶ月毎にモニタリング・評価を行い、6ヶ月毎に見直している。状況に変化があればその都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はケアプランの見直し時のモニタリングやアセスメントとして使い、常にケアにフィードバックしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助も支援している		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんは不定期に来訪してくれている 消防訓練では消防署と、体験学習では教育機関(中学校)との協働がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHの往診医があり、月2回診察をうけている	入居時にかかりつけ医について説明し、以前のかかりつけ医を継続している方もいる。協力医は月に2回の往診があり、24時間連絡が可能になっている。訪問看護師の来訪が週2回あり、日々の健康管理を行っている。歯科の検診があったり、法人病院の利用も可能で、安心の体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護STより週1回の間隔で健康管理をしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	母体法人の病院に概ね入院する方が多く相談員が間に入って病院との連携・連絡が密になっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでの生活が難しくなりそうな利用者の家族にはその旨を、折に触れて伝えている その際、家族と職員の意見の相違があり、皆が同じ方針を共有してる訳ではない	入居時に重度化や終末期についてホームでの指針を説明し同意を得ている。家族の希望を得た上でカンファレンスを開き、医師の判断と看護師や家族の協力が得られるか、可能であれば支援したいと考えている。今後、職員の看取りに向けた共有と勉強会を課題としている。	利用者が重度化している中で、今後あり得る看取りに向けたホームの方針や職員の心構えについて話し合われ、意見の共有を図ると共に医療に対するスキルアップの機会を持たれることを期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は母体組織の定期的なものがあり新人職員以外は全員受講している また、三年の期限が切れた者から順次再講習を受けに行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に1度の割合で実施している	消防署立ち会いの下、年2回設備点検を兼ねて夜間想定避難訓練をしている。ホーム独自でも2ヶ月毎、避難訓練を民生委員の参加協力のもと実施している。また地域の防災訓練にも参加しており、今後は運営推進会議等で呼びかけ、家族にも参加ををお願いする予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けに工夫をしたり 記録は鍵のついた保管庫に保管している	法人のマナー研修に職員が参加し、ホームでも伝達研修を行っている。トイレ誘導の声かけは他の人の前では言わない様に心がけ、不適切な言葉使いを見かけた時には、直接その場で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いにより自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせるように努力しているが、希望に添えない場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は近所に何軒かあるので、希望があれば行けるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて出来る事をしてもらっている	当日冷蔵庫の中身を見て利用者の希望を聞きながら野菜を多く取り入れた献立を立て、利用者と職員で買い物に出かけ食材を選んでもらっている。利用者と一緒に下ごしらえや味付け、味見、盛りつけ、片付け等を行っている。音楽をかけたり職員と会話をしながら、同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない利用者には医師の指示をもらい栄養補助剤を使ったり、水分の少ない利用者には毎日のチェックを行い支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後の歯磨きを習慣つけるよう取り組んでいる		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを個々に把握してそれぞれに合わせた排泄援助を行っている	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、トイレ誘導による排泄支援を行っている。リハビリパンツから布パンツにパットでの対応になるなど、行きたい時にトイレに行ける支援を行っている。利用者一人ひとりのしぐさをも逃さず、状況に合わせた声かけで失敗のないトイレでの排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と運動に注意し、それでも解消されない場合は医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴出来ない時間帯はあるがどうしても入りたい場合は対応している	午後から夕方にかけて希望の時間に入浴してもらっている。希望があれば毎日でも可能であるが、3日に一度は入浴できるよう支援している。拒否が見られる利用者には散歩の後に誘ったり、「湯」の暖簾を掛けるなど工夫して入浴の支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯でも楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝の時間は利用者一人一人の状況に応じて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの薬を把握し誤薬や服薬もれのないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の外出、レク、生活していく上での役割を個々に見つけて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は散歩や、外出を支援できるようプランに盛り込んでいる	毎日のように散歩や、買い物に出かけている。行事として花見や紅葉狩り、敬老会、外食に出かける支援を行っている。また個別外出を年1回企画し、八坂神社や博物館、ドライブ、食事等利用者の好きな場所へ家族の協力を得ながら出かける支援を行っている。	

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する利用者には財布に常にある程度の金額を入れ、無くさないような支援体制をとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用できる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物やソファを廊下に置きくつろげる空間になっている	玄関ロビーにテーブルとソファが置かれ、2階廊下には、椅子やソファがあり、一人になれる居場所やゆっくり寛げる空間となっている。フローには季節の貼り絵や花を飾り、和室があるなど落ち着いた雰囲気ある居心地の良い居場所となっている。また、脱衣室や室内にストーブ、加湿器が置かれ、温度や湿度に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同上		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうようにしている	家族と相談し、使い慣れた鏡台やベット、テレビ、こたつ机等を持参され、大切にされていた仏壇や遺影を祀り、家族の写真を置かれて過ごされている。畳とフローリングの居室があり、カーペットを敷いている利用者もいる。入り口に表札や飾りを貼り、自室が分かりやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には名前が付いたプレートを付けて迷わないようにしている		